

# 日立風流物



(表紙写真提供：日立市)

日立駅前から国道6号まで続く平和通りは、「日本のさくら名所100選」にも選ばれている桜の名所です。満開時には、約130本のソメイヨシノが作り出す桜のトンネルが現れ、多くの人々を包み込みます。

日立市内では、毎年4月1日から20日頃にかけて「日立さくらまつり」が開催され、その中でも特に迫力あるイベントが、平和通りで公開される「日立風流物」です。

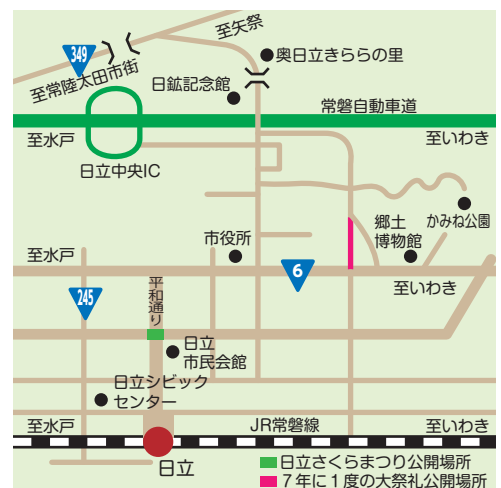
日立風流物の歴史は、元禄8年(1695年)に徳川光圀公の命により、神峰神社がこの地の鎮守となったことに始まります。氏子たちは、神峰神社の大祭に合わせ、4町(東町、北町、本町、西町)から1台ずつ山車を奉納していきました。時代が流れる中で、山車の上部に豪華なからくり人形が配置される等大型化し、現在の姿となりました。大きさは、高さ15m、幅8m、重さ5tにもなり山車の上の5層の舞台では人形芝居が演じられます。

風流物の命、それはからくりです。日立の風流物は、素人の氏子たちが自ら道具を握り、仕掛けの技を工夫して、からくり人形を操る楽しさを見いだしたことが特徴といえます。氏子たちは、地域内に優れた匠や豪農、豪商がいなくても、風流物を観にきてくれる人たちの喜びを糧に創意工夫をしてきました。その意気込みと4町の競い合いが相まって、からくりの技が磨かれると同時に改良が重ねられていきました。

このような山車は全国的に見ても他に例が無く、昭和34年には、山車として初めて国の重要有形文化財(第1号)に指定、平成21年には、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

今年は、「第54回日立さくらまつり」が4月1~17日の期間で開催され、9~10日の両日に本町の風流物が平和通りに登場する予定です。

ご家族・ご友人とともに、美しい桜並木を散策しながら、迫力ある日立風流物を見物してみたいかがでしょうか。



◆場所：茨城県日立市平和町ほか  
アクセス：【電車】JR常磐線日立駅から徒歩10分  
【車】常磐道日立中央ICから約10分

筑波総研株式会社 研究員 富山かなえ